

一般急性期病院における、せん妄、認知症、抑うつに焦点を当てた 看護師教育と 3D-CAM せん妄評価が医療安全に与える影響の評価

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 医療保健情報学コース

益田 早苗

BACKGROUND. 日本では、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行している。高齢者特有の精神疾患である、認知症、せん妄、抑うつ症状の鑑別は難しく、急性期医療を担う臨床の看護師たちは対応に困難をきたし、治療の継続と安全管理の倫理的ジレンマに苦渋しているケースが多い。

OBJECTIVE. せん妄、認知症、抑うつに焦点を当てた看護師教育と 3D-CAM によるせん妄評価の導入が医療安全に与える影響を評価すること。

METHODS. 急性期医療を担う神奈川県内の病院において、65 歳以上の入院患者を対象とし、基本情報とせん妄に関連した情報およびインシデント情報を収集した。せん妄、認知症、抑うつに焦点を当てた看護師教育を実施し、さらに 3D-CAM によるせん妄評価を導入し、その前後でインシデントの発生状況を比較した。

RESULTS. 実施前の患者の平均（土標準偏差）年齢は 78.9 (± 7.81) 歳で男性が 337 名 (56.4%)、実施後は、78.2 (± 7.71) 歳で男性が 289 名 (58.7%) であった。せん妄症状が出現した人数は、実施前が 169 名 (28.2%)、実施後が 115 名 (23.4%) で、 $P=0.0699$ であった。インシデントを発生した人数は実施前が 96 名 (16.0%)、実施後が 49 名 (10.0%) であり、 $P=0.003$ であった。インシデントの発生との関連が疑われる項目の影響を考慮した多変量ロジスティック回帰分析の結果から、看護師教育と 3D-CAM せん妄評価の導入は有意にインシデントの発生減少に寄与していた。

CONCLUSION. せん妄、認知症、抑うつ症状に焦点をあてた看護師教育は、入院高齢者のインシデント発生の減少に影響を与えていることが示唆された。